

顧問 森 崎 岩之助

生涯学習の定義

先日、「現在では生涯学習という言葉がよく使われるようになりましたが、社会教育と生涯学習とはどう違うのですか」という質問を頂きました。

平成2年6月に「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」が制定されましたが、この法律にも生涯学習の定義はなく、私は「厳密にその違いを明らかにすることは難しいが、『社会教育』は学校の教育活動以外の、主として青少年および成人に対して行われる組織的な教育活動であり、『生涯学習』は、生涯の各時期にわたって、一人ひとりが豊かで充実した人生を送ることを目指し、自発的意志によって行う学習を基本とするもので、学校教育や社会教育なども含めたより幅広いものであると理解しております」としか答えられませんでした。

生涯学習時代へ

今、岡山県は、21世紀に向けて「快適で活力あふれる岡山づくり」を目標とした第5次総合福祉計画（平成8年度を初年度とした5カ年計画）を策定し、これに基づく諸施策を進めております。教育の分野では「生涯学習の推進」を中心に位置付け、県民一人ひとりが生きがいや自己実現に向けて、自ら生涯にわたって主体的に学習に取り組むというライフスタイルを確立するための環境づくりを進めることにしています。

また、平成6年3月には、「岡山県の生涯学習推進の指針」を策定して、県としての生涯学習推進の基本的な考え方や施策の方向を示しました。そして、岡山県の生涯学習推進の中核施設となる「生涯学習推進センター（仮称）」を本年11月の完成を目指して建設しています。このように生涯学習時代へ向けて、国も県も市町村においても新しい取り組みが始まっていますが、ここでは学校教育の立場から、生涯学習時代へ向う背景や教育改革のポイントなどについて、日ごろ感じていることを述べてみたいと思います。

生涯学習推進の背景

県民一人ひとりが「だれでも、いつでも、どこでも」学習でき、その成果が適切に評価され生かされるような生涯学習時代を目指す背景には、どのようなことが挙げられるか、特に学校教育を改革していく視点から考えてみたいと思います。

1 学歴社会の弊害をなくす

個人の能力の評価は、過去の学歴ではなく、今までに何をどれだけ学び、現在何ができるかが評価されることが大切であり、学力だけではなく、社会への貢献や自己の人生を豊かにするための資質・能力が問われなければならないと思います。

2 余暇の有効活用

今、人々は物の豊かさから、心の豊かさを求めるように変わってきました。それはわが国が世界でトップクラスの経済力を持つようになって、国民の所得水準が向上し、さらに週休二日制や高齢化等が進む中で余暇時間が増えたことなどによると思われます。それに伴って、心の豊かさや生きがいのための学習要求が増大し、幅広い学習が、年齢を越えて、自由に、手軽に、可能になる社会が求められるようになりました。

3 社会の変化に対応

高度情報化や科学技術の高度化などの急速な進展や国際化・高齢化等急激な社会の変化に対応して、常に新たな知識や技術を積極的に修得するための学習が必要になってきています。

生涯学習時代の学校教育

それでは、このような背景の中で進められる生涯学習時代の学校教育は、どう変わっていけばよいのでしょうか。

1 学ぶ意欲を育てる

一言で言えば「やる気」であり、子供たちの自ら学ぶ意欲を引き出す教育を重視したいと思います。そのための教育活動は、教科の内容を基礎的・基本的な事項に精選し、体験的な学習や問題解決型の学習を重視して、まず、子供たちに学ぶことの楽しさや喜び（成就感・充実感・満足感など）を体得させる必要があります。そして、親や教師が、日ごろ子供たちの願望や欲求にどうかかわるかが大切であり、子供の特技や個性を生かすよう激励したり応援したりして、「やる気」をいかにして燃え上がらせることができるかが問われることになると思います。

2 学び方を身に付ける

いくら「やる気」を育てても、自ら学ぶ能力が未熟であれば、学習効果は上がりません。従来のような記憶中心の受け身の学習からは、学び方は学べないと思います。今、中学校の数学でも、課題学習への取り組みが見られるようになり、子供たちは、日常生活の中からアイデアを出したり、図書館を利用して調べるなど、各種の体験を通して学習の仕方を学ぶようになってきました。私は、このような取り組みが進むことは、大変うれしいことだと思っています。このような学習活動を積み重ねることで、今までの教師が子供に教え込む教育から、子供が教師から学び取る学習に変わることを期待しています。

生涯学習時代の学校は、自己教育力の育成を目指した「やる気」と「学び方を学ぶ」ことを最大の課題としながら、変化の激しいこれからの社会において、生涯を通して学び続け、たくましく生きていく基礎を培っていかなければなりません。そして、教師をはじめ私たち教育関係者は、まず自らが生涯学習時代へ向けて発想の転換に努めるとともに、自らが生涯学習に取り組まなければならないことを自覚したいと思っています。

(岡山県教育委員会教育長)